

ヒト型レスキューロボットコンテスト 2019

概要

- 日時: 2019年11月3日(日)12:00~17:00
- 場所: 大阪電気通信大学 駅前キャンパス1階
- 主催: ヒト型レスキューロボットコンテスト実行委員会
- 共催: 大阪電気通信大学、一般社団法人日本機械学会 ロボティクス・メカトロニクス部門、一般社団法人アール・アンド・アールコミュニティー
- 協力: 大阪電気通信大学 自由工房
- 協賛: 株式会社アーテック、株式会社アールティ、ヴィストン ロボットショップ、京商株式会社、共立電子産業株式会社、クアッドセプト株式会社、クラフトハウス株式会社、近藤科学株式会社、サンリツオートメーション株式会社、有限会社杉浦機械設計事務所、株式会社ダイセン電子工業、株式会社プロアシスト、株式会社リモデルハウス、株式会社ロボティズ
- Mail: humanoid-rescon@googlegroups.com
- Web: <https://bit.ly/2YH2RoM>



スケジュール

- 12:00~15:00 ファーストミッション (18 競技)
- 15:00~15:30 休憩・調整
- 15:30~16:30 ファイナルミッション (6 競技)
- ミニ講演(愛知工業大学 奥川 雅之 先生)
- 16:30~17:00 表彰

ヒト型レスキューロボットコンテストとは

ヒト型レスキューロボットコンテストは、ヒト型ロボットによる災害救助をテーマにしたロボットコンテストです。ヒト型ロボットを遠隔操縦して、約 4m×2m のフィールド内で「トンネルくぐり」「段差乗り越え」「ガレキ除去」「要救助者搬送」の四つのタスクを順に実行し、成功したタスクの数や、かかった時間の短さを競います。また、各タスクに対する審査員による評価も重視されます。

本コンテストの基になっている「レスキューロボットコンテスト」は、2000年から毎年開催されており、ロボット競技を通じて、ものづくりの楽しさを伝えるとともに、防災や減災の大切さや難しさを考える機会を提供しています。本コンテストも、この考えを継承し、さらに多くの皆さんに輪を広げるために開催します。

レスキューホイッスル(受付で販売、1個200円)

本家レスコン実行委員会が、チャリティーグッズとして製作。売り上げは全て日本赤十字に東日本大震災の義援金として寄付します。



競技者・ロボット (ファーストミッション競技順)

	氏名	所属団体名(学校名など)	ロボット名
1	イソタカ	大阪電気通信大学 自由工房 HRP	erst
2	菱池 海斗	大阪工業技術専門学校 ロボット研究部	ホワイトサンダー
3	鍵鷺さん	大阪工業技術専門学校 ロボット研究部	Robovie-X
4	藤原 充崇	産業技術短期大学	ピースゴーレム
5	緑茶	産業技術短期大学	玉露式式
6	森下 英治	大阪電気通信大学 升谷研究室	ガルガドル
7	カテキン	産業技術短期大学	SUSUMU
8	松林 幸希	大阪工業技術専門学校 ロボット研究部	ブラックサンダー
9	ヒロ	大阪産業大学	ヴァラン
10	白井 拓也	大阪電気通信大学 自由工房 HRP	emerald
11	ダイダラ	社会人	カイレイ
12	NAKAYAN	関西四天王	レグホーン
13	大和谷 翠暖	大阪電気通信大学高等学校	DMS-翠
14	ムカサ	大阪工業技術専門学校 ロボット研究部	タイガー
15	ショウ	産業技術短期大学	SH-00
16	千谷 玲央	大阪電気通信大学 自由工房 HRP	メカカニ
17	辻本 和暉	九州工業大学	パプロ
18	二名川 和泉		スコブル_β1

競技時間とポイント

競技時間:

搭載カメラ部門 9 分間

目視部門 6 分間

総合ポイント(1000 点満点)

= タスクポイント(400 点満点)

+ 残り時間ポイント(300 点満点)

+ 審査員ポイント(300 点満点)

タスクポイント = 成功したタスクの数 × 100

残り時間ポイント(搭載カメラ) = 540 - 所要時間(秒)

残り時間ポイント(目視) = 360 - 所要時間(秒)

競技の流れ



(1) スタートエリアから出動。



(2) トンネルくぐり。写真の支柱の高さは 183mm。



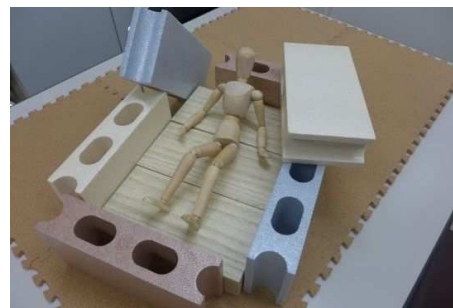
(3) トンネルくぐりと段差乗り越えは同じ支柱を使う。



(4) トンネルくぐりと段差乗り越えは同じ支柱を使う。段の高さは、板厚 5mm を加え、185mm である。



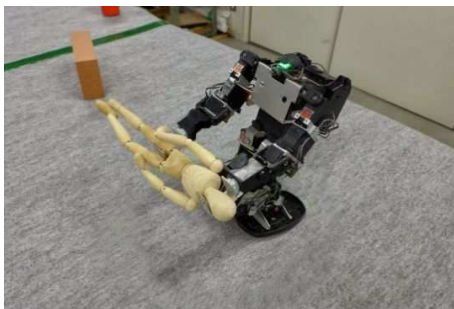
(5) 通路にガレキが散乱している。蹴散らして通過してもよい。



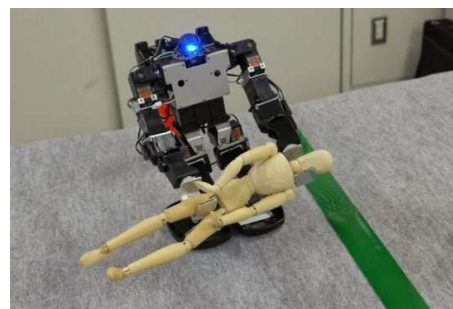
(6) 要救助者人形は規定された姿勢でベッドの上に設置されており、ベッドを囲むようにガレキが配置されている。



(7) ベッドに触れているガレキを全て離すとガレキ除去完了となり、要救助者搬送タスクを開始できる。



(8) 要救助者人形を搬送。ストレッチャーなどの道具を使用しても良い。



(9) 要救助者人形の全身がゴールラインを越えるとレスキュー活動完了。

審査員ポイント

= 3 人の審査員のポイント(100 点満点)の合計

競技フィールド

